

中国「闇」ワクチン 日本へ

例年、元日の新聞各紙 1 面と社説に注目している。写真の毎日 1 面は、スクープといえる記事であり、抜粋して紹介する。

中国で製造したとされる新型コロナウイルス感染症の未承認のワクチンが日本国内に持ち込まれ、日本を代表する企業の経営者など一部の富裕層が接種を受けていることが明らかになった。



2020 年 11 月以降、既に企業トップとその家族ら 18 人が接種を受けたという。中国共産党幹部に近いコンサルタントの中国人が持ち込んでいる。個人が自分で使う以外の目的で海外からワクチンを持ち込むのは違法の可能性はあるが、中国側がワクチンをテコに影響力拡大を狙っている姿が浮かんた。(3 面に続く)

東京都千代田区の雑居ビルがひしめく一角にあるマンション。中国人男性は、日本で拠点としているその一室で取材に応じ、机の上に置いたデスクトップ型パソコンに保存しているファイルを開いた。ファイル名は「VBFC」。中国のためのワクチンビジネスの略で、これまでワクチンを接種した日本人のリストだ。



それぞれの氏名と企業名のほか、接種した日付と連絡先が記されている。男性 15 人、女性 3 人。金融機関、電機メーカー、IT 企業などいずれも日本を代表する大企業 15 社のトップとその家族や知人だ。経済団体の役員を務める経営者や、菅義偉首相のブレーンとされるトップも名を連ねる。接種の「第 1 号」は 2020 年 11 月 7 日で、一代で大企業を築き上げた起業家の男性だった。「最初にこの人物が接種したことでワクチンの安全性が証明された形となり、後に続いた人たちの不安を和らげる材料になった」。中国人男性は、そう説明する。

日本では未承認の中国製とされるワクチンを、企業トップはなぜ接種したのか。「新型コロナウイルスに感染したら自己管理の甘さを示すことになり、企業の経営者として到底許されない」。そう語るのは、11 月 22 日と 12 月 19 日の 2 回、妻と接種した金融機関の社長だ。春以降、相手の人数を減らしているが、立場上、夜の会食は避けられないという。そんな中で、取引先の会社社長から紹介されたのが中国人男性のワクチンだった。「法に触れるかもしれない」との考えも頭をよぎったが、あえて詳細は確認しなかったという。「背に腹は代えられないという心境だったかもしれない」。

ワクチンを提供する中国人男性は、20 年 9 月、懇意の中国共産党幹部から「我が国の製薬会社と協力し、日本で中国製ワクチンへの支持を広げてほしい」と頼まれたといい、ワクチンは中国国有の製薬会社から入手したという。

(2021 年 1 月 3 日)